

議会

9月13日に招集された第3回定例町議会は同日、全日程を終えて閉会しました。
今定例会では、小竹町長、辻本教育長の行政報告のほか、平成23年度の補正予算案等が審議されました。その主な内容についてお知らせいたします。

人事

●教育委員会委員の選任
11月4日をもって任期満了となる小林悟委員の後任に、引き続き同氏が選任同意されました。

●人権擁護委員の推薦
12月31日をもって任期満了となる高瀬美幸委員の後任に、牧野里香氏が選任同意されました。

補正予算

●平成23年度一般会計
平成23年度新冠町一般会計は、既定の歳入歳出予算額に1億3,271万3千円を追加し、総額を52億1,762万9千円としました。

《歳入補正の主なもの》

寄附金	1,909千円
繰入金	1億390千円
繰越金	44,661千円

《歳出補正の主なもの》

町行政電算システム改修業務委託料	6,825千円
障害者自立支援給付費負担金返還金	1,954千円
高齢者等買い物支援事業補助金	2,435千円
予防接種委託料	2,167千円
除雪業務委託料	3,000千円

町長行政報告

町道維持補修等工事 5、100千円
河川整備等工事 2、150千円
長期債償還元金 1億円

新冠町開町130年・町制施行50年記念事業の結果と今後の予定について

記念式典が終了しましたので、式典及びこれまでの記念事業の実施状況、今後の記念事業の予定について申し上げます。

台風が接近し天気への心配をしておりましたが、そのような心配をよそに、9月1日は朝から式典を祝うかのように青空が広がっております。

記念式典に先立ち、氷川神社境内から移転・修復を終えた「町制施行記念碑」の除幕式を判官館森林公園で議会議員、記念事業実行委員会委員のご出席を頂き実施いたしました。

除幕式終了後、レ・コード館において、北海道知事をはじめとした来賓の皆様と、多くの町民の皆様のご出席を頂き、先人の労苦や、今日の新冠町の発展の礎を築いた多くの町民の地道で、ひたむきな努力に思いをめぐらせつつ、ふるさとへの誇りと思いを未来へとつなげて行くという決意の中で記念式典を開催することができました。

また同時に政治、経済、教育、文化等各般にわたって新冠町の振興・発展に貢献することを期しております。



▲9月1日、町制施行記念碑移転に伴う除幕式の様子

記念事業のスタートは5月28日開催の青少年「フアイターズ記念植樹・野球教室」で子どもから大人まで町内の野球関係者が集まり、日本ハムフアイターズの選手とともに、朝日の森にアオダモの記念植樹を行い、その後、町民グラウンドで新冠野球スポーツ少年団への野球教室が実施されました。

6月17日には新冠町長、新冠町議会議員と判官館森林公園に「天皇陛下お手播き苗木」の植栽を、同月26日には新冠町民の憩いの空間や新たな観光名所を中心

に研修を行っております。

これまでの実績ですが、8月末までにそ菜、酪農、肉牛の3品目で1人当たり63日間に及び、研修先からも研修に向かう姿勢も良く、意欲もあり、生産者も情報交換や技術指導することで自分たちも素晴らしい刺激になるとのことです。

3名は、旧太陽小学校教員住宅に居住し、農業研修は勿論のこと、地域の活動にも積極的に参加するなど、地域の一員として活動しているところでもあります。

協力隊が活動し始めて、約3〜5か月経過した中での課題や改善すべき点もありますが、今後、5名の隊員が定住・定着化できるよう支援を継続していくこととしております。

もしたいということから、町民250人が参加し町花であるツツジ2、682本を新冠温泉レ・コードの湯の敷地内に植樹致しました。



▲6月26日、町民記念植樹の様子

町民が北海道の短い夏を楽しもうと7・8月に実施される屋外の事業も、記念の年にふさわしく、内容を充実しながら実施して頂きました。

あいにくの雨の中ではありましたが多くの町民の参加を頂いた「新冠ふるさと祭り」、記念事業として実施して頂いた「農業まつり 豊栄富喜市」、開町100年を記念して作られた新冠音頭を復活させようと取組んで頂いた「ふるさと盆踊り」、子どもからお年寄りまで力を合わせてフルマラソンをリレーする「北海道マラソンに挑戦」など、短い夏の熱い記念事業の数々は、改めて新冠町民としての絆を強めるきっかけ

なつたのではないかと考えています。

9月以降は「昭和音楽大学オーケストラコンサート」、NHK公開番組「ふるさと自慢 うた自慢」、知里幸恵「神々の謡」公演など、実りの秋、文化の秋にふさわしい記念事業が予定されております。

その他にも3月までさまざまな記念事業を予定しておりますので、多くの町民の皆様に参加して頂くことにより、開町130年・町制施行50年の記念の年をともに祝って行きたいと考えているところではあります。

また、その他の記念事業として新冠の郷土を題材にした「ふるさとカルタ」の製作や、現在の新冠町を鳥瞰図で描く「新冠鳥瞰図作成事業」、判官館の貴重な植物を記録する「判官館の植物DVD」の作成など、今日の新冠の姿や自然文化を後世に伝えてゆく事業にも取り組む予定でありますので、今後とも記念事業へのご支援、ご協力をお願いいたします。

地域おこし協力隊の活動状況について

地域おこし協力隊は、地域住民の方々とともに、地域の社会的・経済的な活性化を目指し、活動する都市圏出身の若者たちであります。

本町では、本年4月から観光振興の担い手として2名、6月からは、農業の新たな担い手候補として3名の地域おこし協力隊員を採用し活動を行って

ることで、いずれの協力隊員も新冠に住み登録し、最長で3年間、地域の活性化のために活動しているところでもあります。

まず、観光振興の2名ですが、1名は東京都、もう1名は茨城県からの応募者で、観光協会事務局を担当し、事務局長、局員の職務に就き、事務局体制の整備、観光情報の受発信、体験ツアー等を実施しております。

特に、情報発信については、連休中の道の駅での観光案内所の開設や札幌圏でのPR活動、イベントへの参加など、これまで観光に関する業務で不足していた部門を担っております。

残念ながら、この内1名の事務局長は、自己都合により6月17日付けで退職しておりますが、8月から1名補充をして、観光協会事務局の体制を再構築し、町民皆さんの期待に応えるべき活動を行っております。

町内の観光は東北の震災の影響で、観光客の落ち込みが危惧されますが、様々な町内観光情報の発信等により少しでも防げればと考えております。

一方、農業の新たな担い手候補の3名ですが、札幌市から3人家族の方と単身の方の2名、もう1名は恵庭市から応募の方であります。

この3名は、年々減少や高齢化する農業の新たな担い手候補として、農業に関する研修を公募で受入を希望された12戸で、収穫や管理、搾乳、飼育作業

献された故人を含む19人の方に新冠町特別表彰を贈呈致しました。

本年度予定されている記念事業も、この記念式典を終えて、丁度折り返しを迎えましたので、これまでの記念事業の実施状況の概略について報告いたします。

農作物の生育状況と販売状況について

はじめに町内の主な農作物の生育状況からご報告申し上げます。

まず、町の基幹作物であります水稲ですが、北海道統計情報センターによる8月15日現在の道内の作柄状況は「平年並み」が見込まれております。

これは、穂数が6月全般の日照不足などによって、分けつが抑制されたことから「少ない」となったため、全もみ数は「少ない」ことが見込まれるものの、登熟は7月上旬から8月上旬が高温に経過したことにより、もみの稔実や粒の充実が平年を上回ると見込まれる